



® 平成31年 3月15日(金)

No. 14892 1部370円(税込み)

発行所

一般財団法人 経済産業調査会

東京都中央区銀座2-8-9 (木挽館銀座ビル)

郵便番号 104-0061

[電話] 03-3535-3052

[FAX] 03-3567-4671

近畿本部 〒540-0012 大阪市中央区谷町1-7-4

(MF天満橋ビル8階) [電話] 06-6941-8971

経済産業調査会ポータルサイト <http://www.chosakai.or.jp/>

特許ニュースは

- 知的財産中心の法律、判決、行政および技術開発、技術予測等の専門情報紙です。

定期購読料 1カ年61,560円 6カ月32,400円
(税込み・配送料実費)

本紙内容の全部又は一部の無断複写・複製・転載及び
入力を禁じます(著作権法上の例外を除きます)。

目次

☆地域における観光と知的財産の関連性 (41) … (1)

☆フラッシュ(特許庁人事異動) …… (10)

☆知的財産研修会(明解 裁判例から見た進捗性判断) (11)

地域における観光と知的財産の関連性(41)

東京理科大学経営学研究科

教授 生越 由美

第5章 地域における事例

38. 茨城県古河市(著作物)

茨城県は、関東地方の群馬県、栃木県、茨城県の北部3県の中で太平洋に面する位置にある。県庁所在地は水戸市で、2,882,943人(2018年10月1日時点)で、日本の総人口の約23%を占めており、静岡県に次いで全国第11位である。面積は6,094km²(霞ヶ浦・北浦・牛久沼・酒沼などを含

めない場合は5,874.20km²)で、国土の約1.6%を占めており、全国24位である。

しかしながら、47都道府県の魅力度を探る「地域ブランド調査2018¹(2018年10月15日発表)」では、茨城県が6年連続で9度目の最下位と発表されて、話題となった。そこで、筆者は茨城県の魅力を再発見したいとずっと考えていた。

今回取り上げる「古河市」は、関東地方のほぼ



創業1923年
杉村萬国特許法律事務所

SUGIMURA & Partners

代表弁理士 杉村 憲司 代表弁護士 杉村 光嗣

杉村 興作
鈴木 治
寺嶋 勇太
吉澤 雄郎
柿沼 公二
門田 尚也
市枝 信之
田中 睦美
鹿山 昌代

塚中 哲雄
福尾 誠
結城 仁美
小松 靖之
神 紘一郎
加藤 正樹
君塚 絵美
宮谷 昂佑
北村 慎吾

澤田 達也
齋藤 恭一
川原 敬祐
伊藤 怜愛
坂本 晃太郎
朴 瑛哲
井上 高雄
廣 昇
伊藤 佐保子

富田 和幸
池田 浩
岡野 大和
片岡 憲一郎
西尾 隆弘
真能 清志
辻 啓太
鈴木 裕貴
岡本 岳

下地 健一
吉田 憲悟
前田 勇人
田中 達也
石川 雅章
石井 裕充
塩川 未久
Stephen Scott

大倉 昭人
山口 雄輔
坪内 伸
高橋 林太郎
永久保 宅哉
藤本 一
橋本 大佑
水間 章子

栗野 晴夫
中山 健一
甲原 秀俊
福井 敏夫
色部 暁義
鈴木 俊樹
鈴木 麻菜美
貴志 浩充

河合 隆慶
村松 由布子
太田 昌宏
酒匂 健吾
田浦 弘達
内海 一成
大島 かおり
山本 睦也

所員190名うち弁理士67名、弁護士2名、欧州弁理士1名

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-2-1 霞が関コモンゲート西館36階 E-mail: DPATENT@sugimura.partners
電話: 03-3581-2241(代表) FAX: 03-3580-0506 URL: <https://sugimura.partners/>

中央、茨城県の西端に位置し、栃木県、埼玉県と接し、群馬県ともかなり近い位置にある交通の要諦である (図1)。日本橋、千住、草加、越谷……と続く、日光街道の9番目の宿場町である。東京からJ R 宇都宮線やJ R 新宿湘南ラインで宇都宮に行く際、途中で通過していることを思い出す方も多いと思う。

古河市は、人口約14万人であり、旧・下総国 (千葉県) 葛飾郡に当たる。県西地域最大の都市であり、近隣の町などから労働人口流入があり、古河都市圏を形成している。

江戸時代が興味深い。古河藩の藩主は短期間でかなり変わった。ここまで藩主が変わる藩も珍しい。日光に至る道の交通の要諦に位置する藩であったためと思われる。しかし藩主の交代により、藩の特産品の変更が促された側面がある。現在でも事業部長が変わったときに、新製品の開発に部長の以前の経験を活かすケースがあるが、このパターンに近いように思う。

図1：古河市の交通地図



(1) 地理

関東平野のはほぼ中央に位置し、全域にわたり平坦な地形が広がる。南部を利根川が東流、西部は渡良瀬遊水地を経由した渡良瀬川が流れ利根川橋の北で利根川に合流する。

南部に比べ北部はやや標高が高く、市内を流れる川は利根川を除き北から南へと流れる。一方東西方向では目立った標高差の傾向はない。

古河市が接する「渡良瀬川」の下流は、中世には「太日川 (現在の江戸川)」と呼ばれ、東京湾に注ぐ水運上の重要な河川だった。古河は現

在の東京と房総と北関東を結ぶ交通の要諦にある。

このような交通上の理由と古河市の西方 (現在の渡良瀬遊水地方面) が湿地であったため、室町時代に古河公方が「古河城」に移座することになった。しかし水害に悩まされることも多く、明治期の足尾銅山鉱毒事件では、河川改修事業により古河城が破壊された。

図2：古河市



(2) 歴史²

縄文時代のもものとみられる貝塚、集落が発見されている。この地には縄文時代から人が定住していたと考えられる。

奈良時代のこの地の歴史は、『万葉集』で証明されている。「古河」は、古く「許我」と表記された。後述するが、『万葉集』に当時の情景が二首詠まれている。

当時の情景が二首詠まれ「許我 (こが)」の地が奈良時代から渡良瀬川の渡し場として賑わっていたことが伺える。

平安時代の歴史は、渡良瀬川近くの市内牧野地にある「川戸台遺跡」が、9世紀初め～10世紀の東日本最大級の「製鉄所」跡であったことが分かっている。ここで生産された「鉄鍋」が「多賀城 (仙台市)」や「秋田城 (秋田市)」に送られていたことが、古河市教育委員会の発掘調査により判明した。

同調査により、9世紀後半の「半地下式平窯」が茨城県内で初めて発見された。ここで作られた「須恵器」が水運により関東地方の広範囲に